

単行本企画素案
「博士の頭ン中」

<企画意図>

大学教授や学者は道を歩きながら、トイレで、食事をしながら、あるいは人と話しながら、何を考えているのだろうか？また、なぜその道を志したのだろうか？

某大学で教授を務める知り合いの父親は、チーズと間違えて LUSH の石鹸を頬張り「腐ってないか？」とブチ切れた、という。洗面所の石鹸台に、チーズがあるはずがないことは、一般の成人なら誰でもわかるはず。だが、そんな常識が通用しないのが、教授なのだ。

周りから見れば明らかに変人。でも頭の中には我々が想像もつかないような無限の宇宙が広がっているのが、博士という生き物だ。

真人間としての常識を求めるのが酷。専門外のことに關しては、日常生活すらシロウトな博士たちの頭の中と、奇天烈な日常生活に振り回される家族の小言、そして学問を究めたいと大志を抱いた瞬間やきっかけ、悶絶しながら求道する様を通じて、ひとつのことを極める難しさや大切さとそのためになりふり構わぬ様子を面白おかしく伝えることに、本書の存在意義はある。

<構成案>

家族も呆れるめちゃくちゃな教授の日常（エピソード集）

凝り性にも程がある！——究めなければ気が済まないセンセイのご趣味拝見（趣味人が多い教授の趣味自慢コーナー）

教授の1日密着（研究に論文に趣味に忙しいセンセイの日常をのぞき見る）

脳科学者が博士の頭の中を脳科学

目黒～本郷を徒歩 30 分！ 電車移動並みの驚異の健脚センセイ

企画提案
有限会社ラップ 土屋幸仁
東京都新宿区新宿 1-12-15
サンサーラ第四御苑 901
電話：03-5360-7472